



future
health
index
2026

医療現場で進むAI活用

いま、医療の未来を形づくる

グローバルレポート
フィリップス委託調査

目次



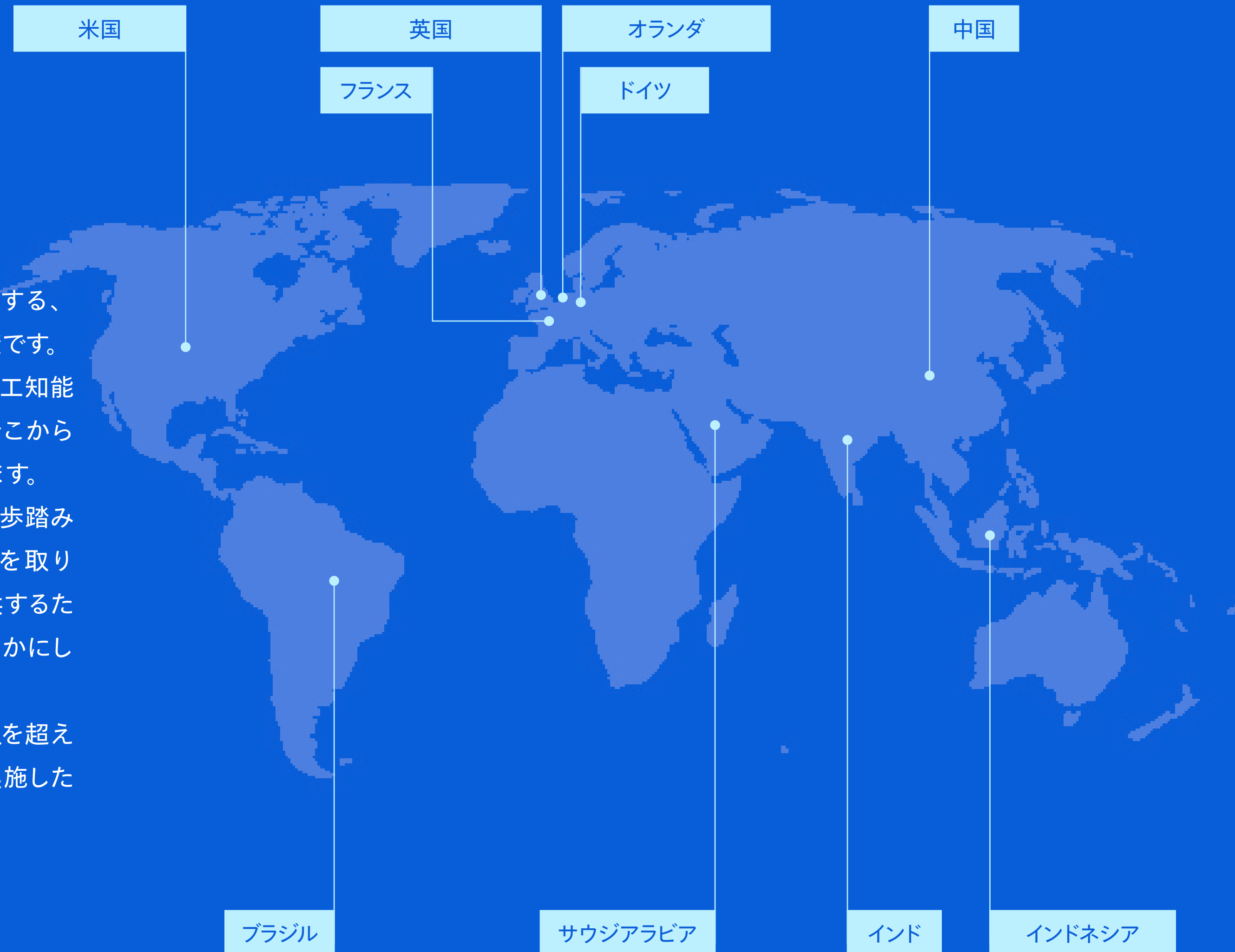
調査概要	3
序文	4
エグゼクティブサマリー 5つの主要なインサイト	5
イントロダクション AIはすでに医療を変え始めている — しかし、まだ本格的な規模には至っていない	6
Chapter 1 AIがもたらす成果が現れ始めている	7
Chapter 2 AIの導入が医療現場の受け入れ態勢を上回るスピードで進んでいる	15
Chapter 3 新たなハイブリッド・ケアチーム	19
今後の展望 AIと医療の新たな時代	25
付録 調査方法	27
用語集	29
10年にわたるグローバル調査	30

調査概要

本調査は、医療従事者と患者双方の視点を分析する、この種の調査として世界最大規模のグローバル調査です。11回目となるFuture Health Index 2026では、人工知能（AI）が医療にもたらしている具体的な影響と、そこから得られている測定可能な成果について調査しています。

今年のレポートでは、AIの「可能性」からさらに一步踏み込み、世界各国の医療従事者や患者が、時間を取り戻し、医療提供能力を拡大し、より良いケアを提供するために、AIを実際にどのように活用しているかを明らかにしています。

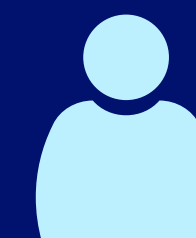
Future Health Index 2026は、10カ国の2,000人を超える医療従事者と20,000人を超える患者を対象に実施した独自の定量調査に基づいています。



10カ国



2,000人以上
医療従事者



20,000人以上
患者



Shez Partovi
Chief Innovation Officer,
Chief Business Leader
Healthcare Informatics



Carla Goulart Peron
Chief Medical Officer

「AIは『可能性』から『成果』へと
進みつつあります。医療従事者が、
より価値の高い臨床業務に充てる時間を
取り戻し、より多くの患者にケアを
提供できるよう支援しています。」

序文

AIはもはや、医療における未来の可能性にとどまりません。日々の医療のあり方を、すでに変え始めています。

少し前まで、AIをめぐる議論の多くは、がんの早期診断や、診療プロセスの特定の場면을改善するといった、個別の臨床用途に焦点を当てていました。しかし現在、より大きな変化が起きています。AIは日常的な医療提供の一部となりつつあり、医療従事者が時間、情報、専門知識をより有効に活用し、患者をより良く支援することに役立っています。

今年のFuture Health Indexでは、医療現場ですでにAIが活用されている領域において、具体的な成果が生まれ始めていることが明らかになりました。

その価値は、一つの画像の読影や、一つの診断を迅速化することだけにとどまりません。AIは、事務作業の負担軽減、ワークフローの改善、より安全な医療の支援、そして医療従事者がより深く考えるための余裕を生み出しています。その結果、医療チームは、よりタイムリーで連携のとれた、一人ひとりに合わせたケアを提供できるようになります。

またAIは、医療チームにおける「ツール」から「チームメイト」へと、その役割を変えつつあります。日々の業務における負担や障壁を減らし、医療従事者がその能力を最大限に発揮できるよう支援しています。

多くの医療従事者は、数多くの優先事項を抱えながら、日々の業務をこなしてきました。AIによって、自分の仕事を支える「もう一組の目」が加わったように感じ始めています。

重要なのは、AIが人間の専門性にとって代わるものではないということです。本調査では、医療従事者の圧倒的多数が、人による判断、説明責任、そして人と人との関係性は、今後も医療の中心であり続け、患者との信頼関係を維持するうえでも不可欠だと考えていることが示されています。

医療システムでは、患者の受け入れ能力を高め、医療へのアクセスを拡大することで、増大する需要に対応するためのAI活用が進んでいます。その目的は、患者が受ける医療の質を高めながら、より多くの人々に医療を提供できるよう、医療システムそのものの能力を強化することです。

一方で、初期の成果が見え始めているとはいえ、その可能性が十分に引き出されているわけではありません。

課題はテクノロジーそのものではなく、統合にあります。

AIのイノベーションは、医療システムがそれを取り込むスピードを上回っています。AIは、個人向けツール、病院が独自に開発したアプリケーション、臨床機器やシステムなど、さまざまな場所で使われるようになっています。パイロットプロジェクトによってその可能性は実証されてきましたが、次の段階では、AIをワークフロー、データ、医療チーム全体にどれだけ効果的につなげられるかが鍵となります。

これを実現できれば、大きな可能性が開けます。統合されたAIは、医療チームがより連携のとれた、予防的かつ個別化されたケアへと移行することを支援し、より早期の介入、患者体験の向上、そしてアウトカムの改善につながる可能性があります。

しかし、AIを迅速に拡大することと同じくらい、責任ある形で拡大することが重要です。

AIが医療により深く組み込まれていくなかで、医療システムとテクノロジーパートナーがAIをどのように統合・管理するかによって、AIが信頼を強化するものになるのか、それとも損なうものになるのかが決まります。

そのためテクノロジーパートナーには、個別のソリューション提供にとどまらず、信頼性、相互運用性、拡張性を備えた形でAIを臨床ワークフローに組み込む責任があります。

今日、AIは医療において明確な役割を担っています。次のステップは、AIを責任ある形で医療に統合し、ともに、より多くの人々へより良い医療を届けていくことです。

5つの主要なインサイト

Future Health Index 2026では、AIがすでに医療において測定可能な成果をもたらしている一方、その価値をさらに拡大するには、より優れた統合、トレーニング、ガバナンスが必要であることが明らかになりました。
今年の調査から、以下の5つのポイントが明らかになりました。

71%

医療従事者の71%が、ワークフローの効率が向上したと回答。



AIは測定可能な成果をもたらしている

AIは、ワークフローや意思決定から患者とのコミュニケーションまで、医療提供のあり方を改善しています。

50%

医療従事者の50%が、AIによってより多くの患者を診療できるようになったと回答。



AIは医療へのアクセス拡大に貢献している

事務作業の負担を軽減し、より効率的なワークフローを支援することで、AIは逼迫する医療システムに新たな余力を生み出しています。世界全体の中央値では、1週間あたり8人多くの患者を診療できるようになっています。

57%

医療従事者の57%が、医療チーム間で統合された患者データへのアクセスが改善したと回答。



つながったデータが相乗効果を生み出している

AIによって分断されたシステムにまたがる情報をまとめることで、より迅速で連携のとれた医療を支援できます。

64%

医療従事者の64%が、職場で提供されているAIではニーズを満たせない場合、個人で利用しているAIツールを使用すると回答。



医療従事者のAI活用が組織の対応を上回っている

AIの導入は加速しており、その効果的な活用には、組織が信頼でき、統合されたツールを提供できるかどうか 중요합니다。

70%

医療従事者の70%が、AI搭載ツールに関するトレーニングについて、利用できない、不十分、または一貫性がないと回答。



AI活用の拡大を阻む受け入れ態勢のギャップ

AIの可能性を最大限に引き出すためには、役割に応じたトレーニング、明確なガバナンス、ワークフローへの統合に投資する必要があります。

イントロダクション：AIはすでに医療を変え始めている — しかし、まだ本格的な規模には至っていない

医療におけるAI活用は広がりつつあり、医療従事者はすでに具体的な効果を実感しています。医療従事者と患者の双方で、AI搭載ツールの活用が進んでいます。

医療従事者の3分の2（65％）が、所属組織から提供されるAI搭載ツールの利用が過去1年間で増加したと回答しています。また、半数近く（48％）が、業務上のアイデアを相談する「相棒（buddy）」として生成AIを活用しています。

人材不足や医療システムへの負荷が、AIの検討・導入を後押ししています。

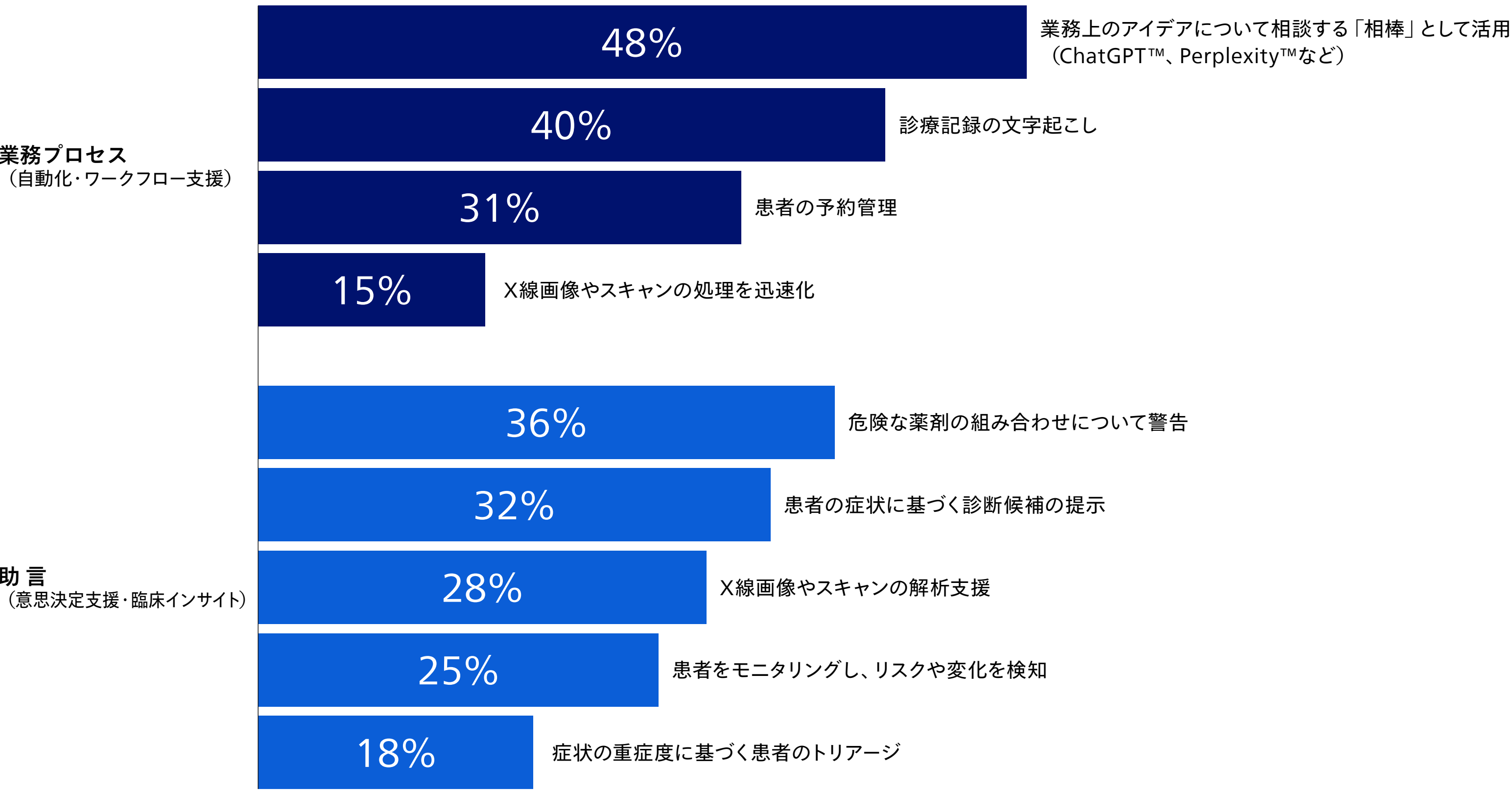
一方、AIの導入状況は、地域、臨床領域、医療従事者の役割によってばらつきがあり、医療システムによってAI活用の成熟度も異なります。

AIを医療提供や業務により深く組み込んでいる組織がある一方で、大規模な導入に必要な基盤を構築している段階の組織もあります。

今回の調査結果は、医療が現在、大きな転換期にあることを示しています。AIのインパクトは「可能性」から「実践」へと移りつつあります。

テクノロジーが進化し続けるなか、その可能性を最大限に引き出すためには、効果的なガバナンス、ワークフローへの統合、そして運用面での支援が不可欠です。

医療従事者は現在、AIをどのように活用しているか





1

AIがもたらす 成果が現れ始めている

AIは、医療従事者の時間を生み出し、臨床上の意思決定を強化し、医療提供能力を拡大するなど、測定可能な形で医療を改善しています。また、業務面・財務面でも初期の成果が現れ始めています。

医療におけるAIの真の価値とは？

医療機関でAIが活用されている領域では、医療従事者が、医療の改善につながる測定可能な成果を実感しています。

医療従事者によると、AIは時間を生み出し、臨床上の意思決定を強化し、医療提供能力を拡大するとともに、業務面・財務面でのメリットをもたらしています。患者ケアや中核的な臨床業務のさまざまな場面で、AIがもたらす成果が現れ始めています。

医療従事者は、医療におけるAIの役割について引き続き前向きに捉えています。83%が、AIは患者のアウトカムを改善できると期待しており、前年から4ポイント上昇しました。また、71%が、AIのメリットはすでにリスクを上回っていると考えています。

医療従事者は、より早期の診断がアウトカム改善につながり得るオンコロジーなどの臨床ケアパスにおいて、AIが大きなインパクトをもたらすと考えています。

今年の調査結果は、医療がAIの価値を最大限に引き出すうえで、まだ初期段階にあることも示しています。

現れ始めている成果には大きな意義がある一方、多くの医療機関は、AIを臨床現場やワークフローに効果的に統合する方法を模索している段階です。

AIの導入が成熟し、テクノロジーがさらに進化することで、医療を改善する可能性は今後大きく広がると考えられます。

AIの利用経験が高まるほど、AIへの期待も高まる



83%

医療従事者の 83% が、
AI は患者のアウトカムを改善できると期待



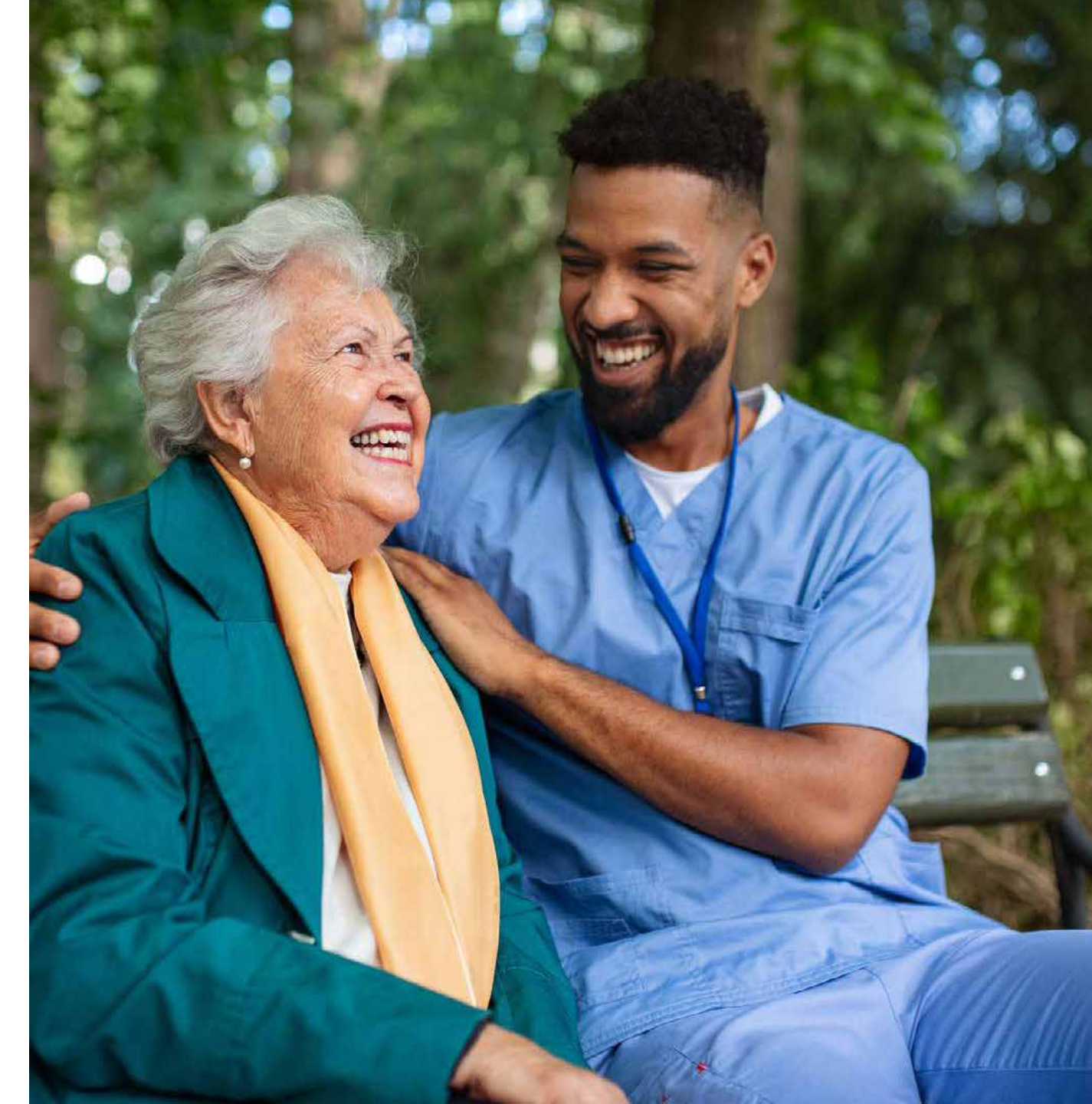
70%

日常的に AI を利用している患者の 70% が、
AI は医療を改善できると期待



32%

AI をまったく利用していない患者では、
AI が医療を改善できると期待している割合は 32%



AIが肺がんの早期発見を支援

肺がんは現在、世界で最も多くのがん関連死を引き起こしています。

AIは、疾患の可能性を示す小さな所見である肺結節をより早期に特定し、その変化を医療従事者がより一貫して早い段階で検出できるよう支援しています。

これにより、アウトカム改善に不可欠な、より早期の診断とタイムリーな介入につながる可能性があります。

主要な大学病院でも、画像データの読影や経時的な変化のモニタリングをAIで支援するなど、早期発見に特化したプログラムが進められています。

AIが医療従事者に時間をもたらし、その使い方を変えている

一人の医療従事者が使える時間には限りがある一方、医療システムに対する需要は増え続けています。こうしたプレッシャーは、医療提供、業務負荷、そして医療従事者のウェルビーイングにも影響を及ぼしています。

AIは、医療従事者が時間をどのように使うかを変え始めています。事務作業の負担軽減と効率的なワークフローの支援により、AI搭載ツールは日常的な業務の効率化に貢献しています。

医療従事者は、AIによって毎週時間を節約できていると回答しています。半数近く（46%）が、年間平均で少なくとも132時間、フルタイム勤務の3週間以上に相当する時間を節約できていると回答しました。*

AIは単に時間を生み出すだけではなく、医療従事者の働き方そのものを変えています。

多くの医療従事者が、生まれた時間を、症例をより詳細に検討する、業務の精度を高める、意思決定を強化するといった、より価値の高い臨床業務に活用しています。特に看護師では、こうした領域全般で一貫して高い効果が報告されています。

これは、事務作業の負担を増やすことも多かった従来のヘルステクノロジーとは異なる変化です。

例えば、AIによる診療記録作成支援ツールに関する初期のエビデンスでは、文書作成時間の短縮に加え、医療従事者と患者とのコミュニケーションの向上や、医療従事者の職務満足度の改善が示されています。

患者にも直接的なメリットが現れ始めています。医療従事者の56%が、AIによって患者とより丁寧なコミュニケーションを

* 年間最低44週間勤務、1週間を1日8時間以上×5日間と定義し、時間短縮の中央値である週3時間を基に算出。

取れるようになったと回答しています。

患者もこの点を重視しています。81%が、AIによって医療従事者が臨床業務により多くの時間を割けるようになれば、AIに対してより前向きになると回答しています。

これはFuture Health Index 2025の調査結果にもつながるもので、昨年は患者の39%が、AIによって診察時に医師と過ごす時間が増えれば、AIに対してより前向きになると回答していました。

AIだけで価値が生まれるわけではありません。AIの可能性を最大限に引き出すためには、医療システムがAIを臨床ワークフローに統合し、医療従事者を支援するとともに、時間の最適化と事務作業負担の軽減につなげる必要があります。

74%

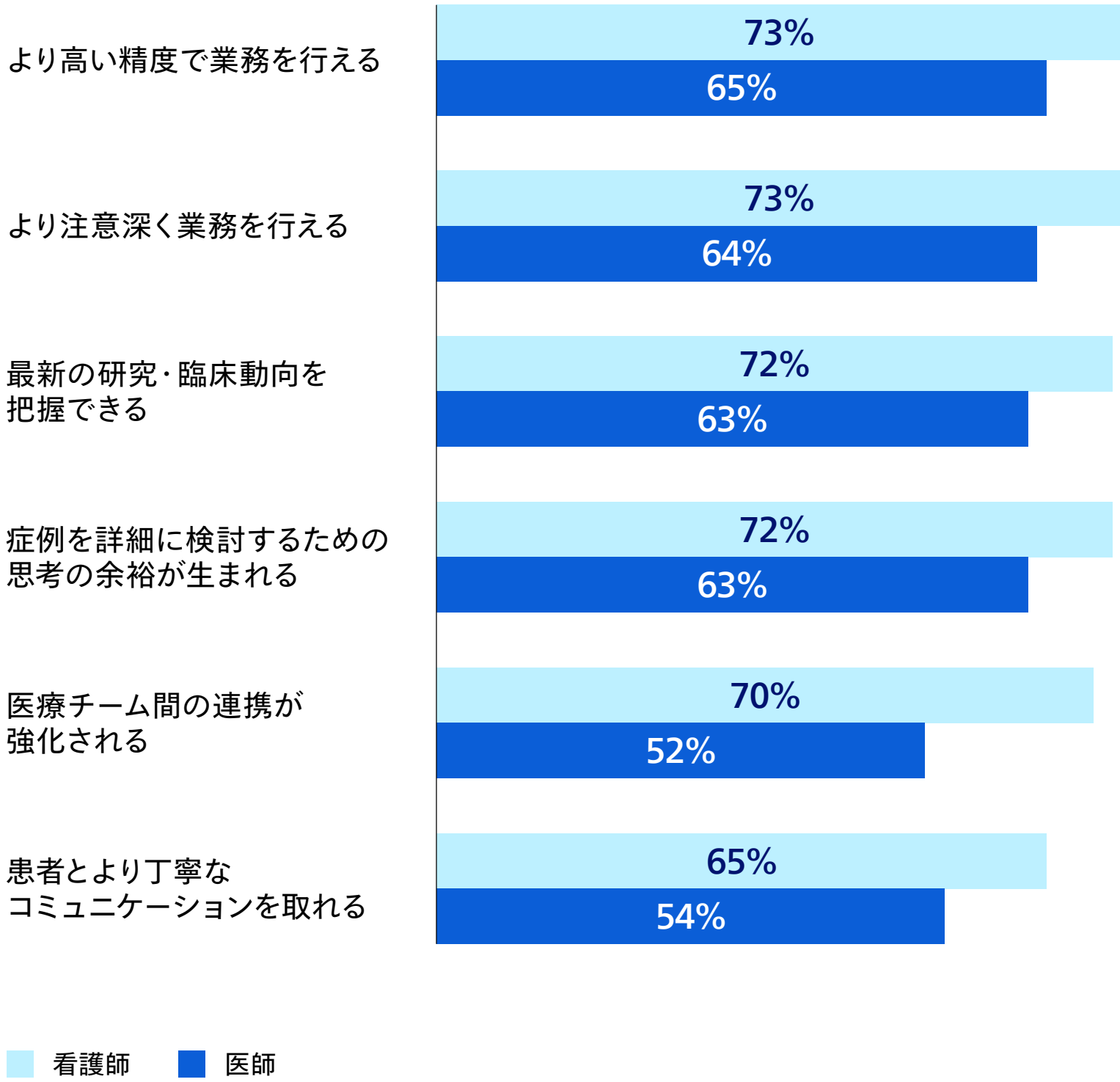
健康情報を得るために生成AIを利用している患者の74%が、生成AIによって時間を節約できると回答。

情報収集、診察の準備、診断内容の理解などに役立っています。

患者の視点



AIによって生まれた時間を、より価値の高い業務へ



AIが医療従事者のウェルビーイングを改善

AIによる支援によって、医療従事者は負担の軽減を実感し始めています。

わずか2年前、Future Health Indexでは、ヘルスケアリーダーの3分の2（66%）が、バーンアウトの増加とワークライフバランスの悪化を懸念していました。

現在、医療システムでは、AIの活用が、医療に携わるうえでの集中力や仕事への充実感の向上に寄与していることが明らかになりつつあります。

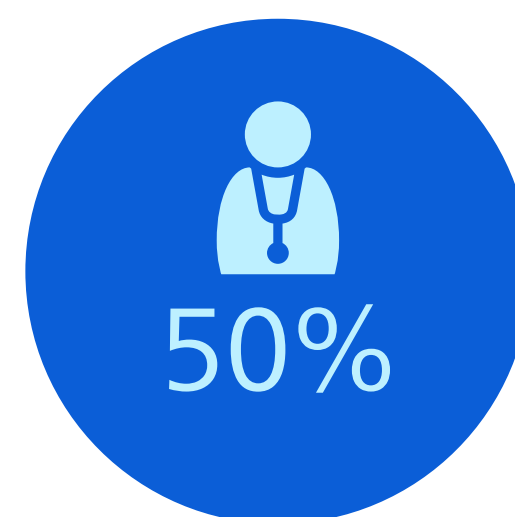
放射線科など一部の診療領域では、時間短縮の効果を数値化することが難しい場合でも、AIによって仕事がしやすくなったと感じる医療従事者が多くなっています。

AIの価値は、節約できた時間だけで測られるものではありません。認知的な負荷の軽減や集中力の向上も重要な価値です。

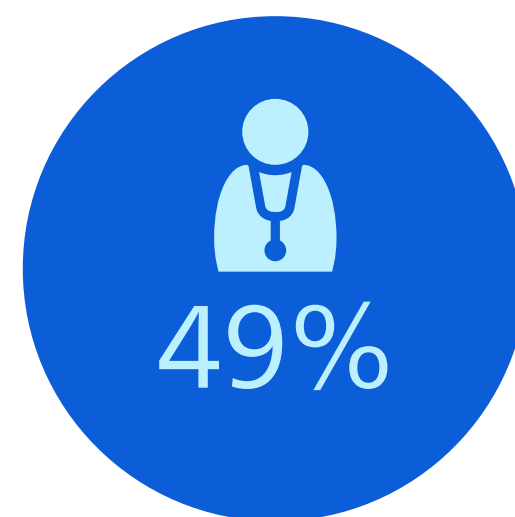
一方、節約できた時間がすべて維持されるわけではありません。医療従事者の約4分の1（23%）は、生まれた時間がすぐに別の業務に充てられていると回答しています。

AIのメリットを最大限に引き出すには、医療機関が生まれた時間を意図的に確保し、臨床ケアに再配分することが必要です。

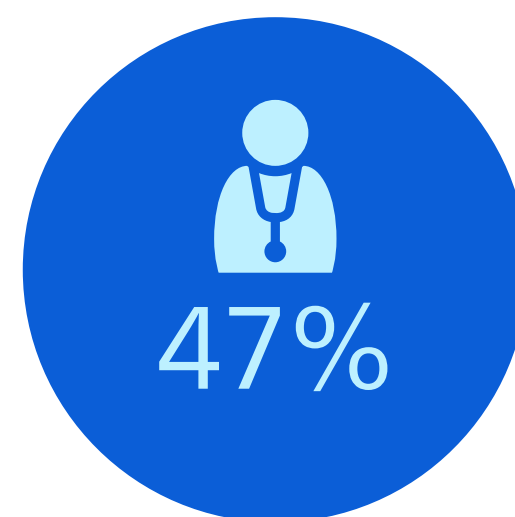
医療従事者は、ストレスの軽減とワークライフバランスの改善を実感



AIによって
ワークライフバランスが改善した



ストレスが軽減した



残業や自宅への
仕事の持ち帰りが減った



AIが医療へのアクセスと提供能力を拡大

昨年、多くの医療従事者が、AIによって医療提供能力が拡大し、患者の受け入れがより効率的になると予想していました。そして現在、その効果が現れ始めています。

医療従事者の半数が、AIによってより多くの患者を診療できるようになったと回答しています。

増加した患者数の中央値は1週間あたり8人で、中国では最大の30人となっています。

患者によるAI活用も、医療需要のあり方を変える可能性があります。

患者の10人に6人（60%）が、生成AIによって医師の診察を受ける必要があるタイミングを判断するのに役立ったと回答しており、適切な医療を受けるための判断を支援しています。

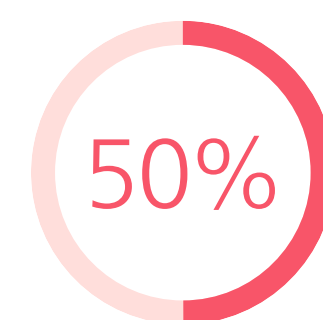
医療従事者は、AIが医療へのアクセス拡大にも寄与すると考えています。

75%が、AIは異なる医療環境の間にある医療の質の格差を縮小し、十分な医療サービスを受けにくい地域や地方・へき地におけるサービスの改善に役立つと回答しています。

例えばAIによって、こうした地域の患者も、医療資源や専門家の知見を活用できるようになります。

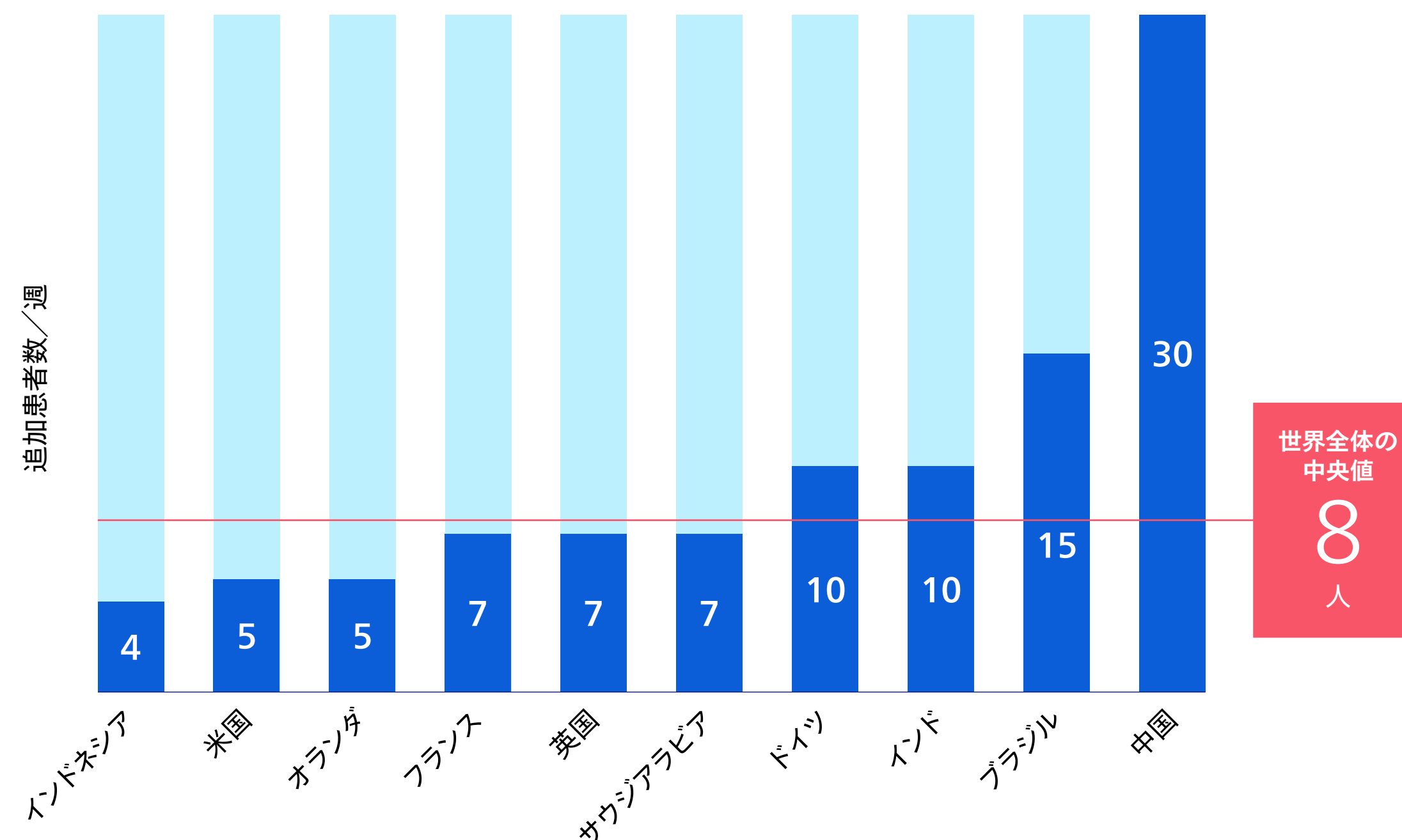
患者もその可能性を認識しています。58%が、医療へのアクセスが困難な人々にとってAIが必要な支援を受けやすくすると考えており、56%が地方・へき地における医療を改善すると考えています。

AIによって診療できる患者数が増加



医療従事者の50%が、AIによってより多くの患者を診療できるようになったと回答。

そのうち、1週間あたりに診療できるようになった患者数の中央値：



中国におけるAIへの実践的な見方

中国におけるAIを活用した医療変革への取り組みは、医療を急速に変えつつあります。

AIによる診断支援やインテリジェントなフォローアップシステムの導入から、診断、治療、長期的な健康管理をつなぐことを目的とした初期段階の実験的なAI病院プラットフォームの試行まで、中国の医療従事者によるAI活用は世界平均を上回っています。

中国国家衛生健康委員会による最近の政策指針も、個別のパイロット導入から、より体系的で規制された導入への移行を示しています。

一方、中国の医療従事者は、AI搭載ツールを最も頻繁に利用している層の一つであるにもかかわらず、AIが患者アウトカムに与える影響について、世界の医療従事者と比べて慎重な見方を示しています。

これは懐疑的であることを意味するのではなく、AI導入がより成熟した段階に入っていることを示している可能性があります。

実際にAIを利用する経験が増えることで、中国の医療従事者はAIのメリットと限界の双方をより明確に理解し、AIが真に価値を発揮できる領域について、より実践的な見方を持つようになっている可能性があります。

AIが臨床上の意思決定を強化

AIは、臨床上の意思決定における**効率と質の双方**を改善しています。

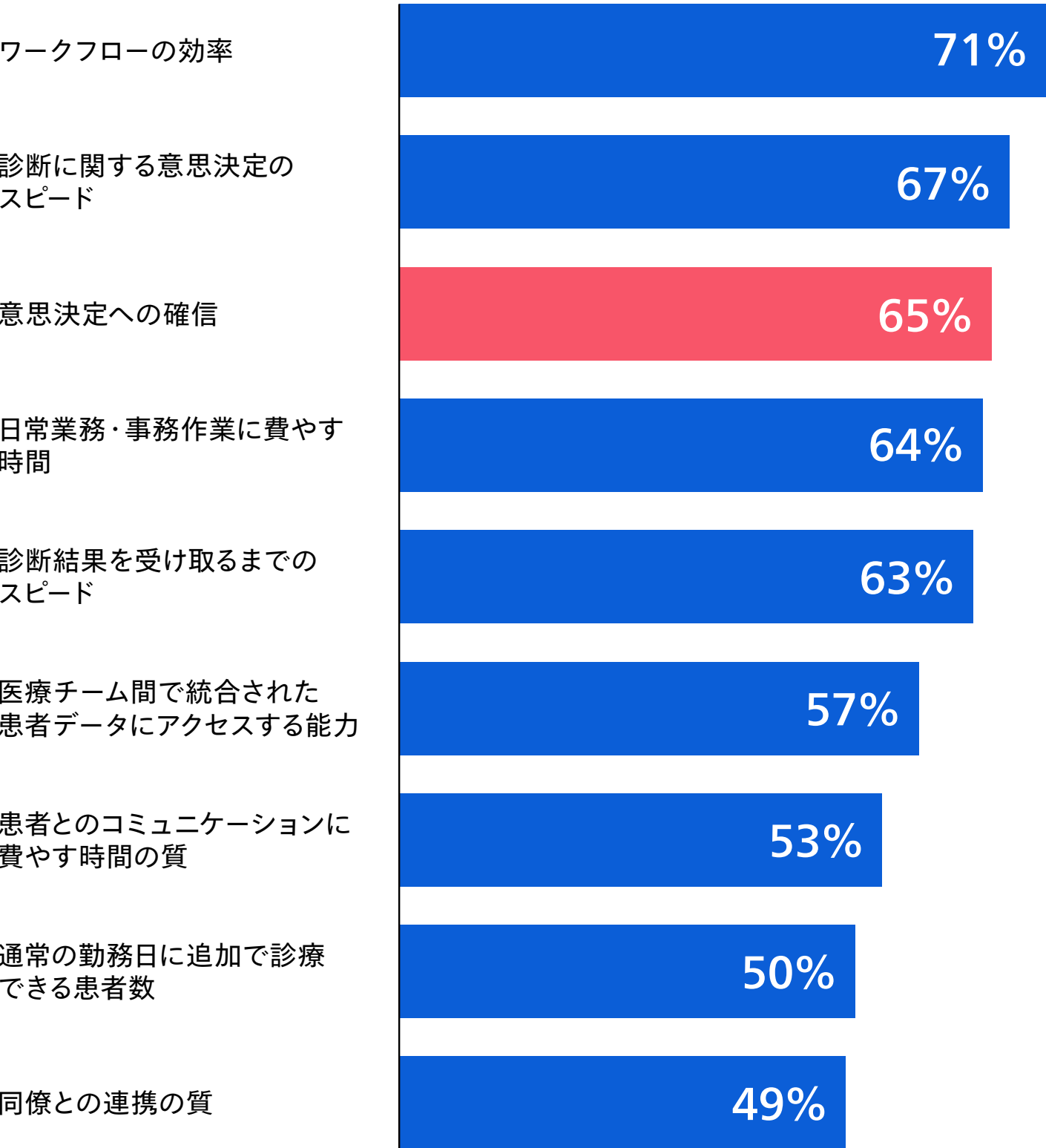
AI搭載ツールによって、関連する情報をより迅速に把握でき、情報収集に費やす時間が削減されることで、医療従事者はその効果を実感しています。

医療従事者の71%がワークフローの効率が改善したと回答しているほか、57%が医療チーム間で統合された患者データへのアクセスが改善したと回答しており、複数のシステムを横断して情報を探す必要性が減っています。

AIは臨床判断に取って代わるのではなく、臨床判断を補完・強化しています。

医療従事者は、より迅速に、より高い確信を持って意思決定できるようになり、医療チーム間の連携も強化されたと回答しています。ただし、その効果の大きさは国や医療システムによって異なります。

医療従事者が実感する、AIによる医療提供の改善



AIは「情報をつなぐ知的レイヤー (cognitive layer)」として機能

分断された医療データを扱う医療従事者は、患者記録、画像、臨床エビデンスなど、複数の情報源から必要な情報を集約しなければならず、多くの場合、それを時間的な制約のなかで行っています。

AIは、患者に関する情報を迅速にまとめ、医療従事者の時間と労力を削減する「情報をつなぐ知的レイヤー (cognitive layer)」として機能し始めています。

これにより、医療従事者は患者記録全体を理解することに集中し、より多くの情報に基づいた意思決定を行うことができます。

システム間の連携がさらに進めば、医療従事者が実際の医療現場で情報にアクセスし、活用する方法をさらに改善できる可能性があります。また、見落とされる可能性のある情報を捉えることで、患者ケアの改善にもつながります。

例えばMRI検査などの処置を行う前に、AIによって、それまでの臨床歴など、患者記録全体から関連情報を特定し、見落としを防ぐことができる可能性があります。

相互運用可能な医療システムによって、よりつながったインテリジェンスのレイヤーを構築し、医療従事者が患者のケアジャーニー全体をより広い視点で把握できるようになる可能性があります。

AIがより安全な医療を支援

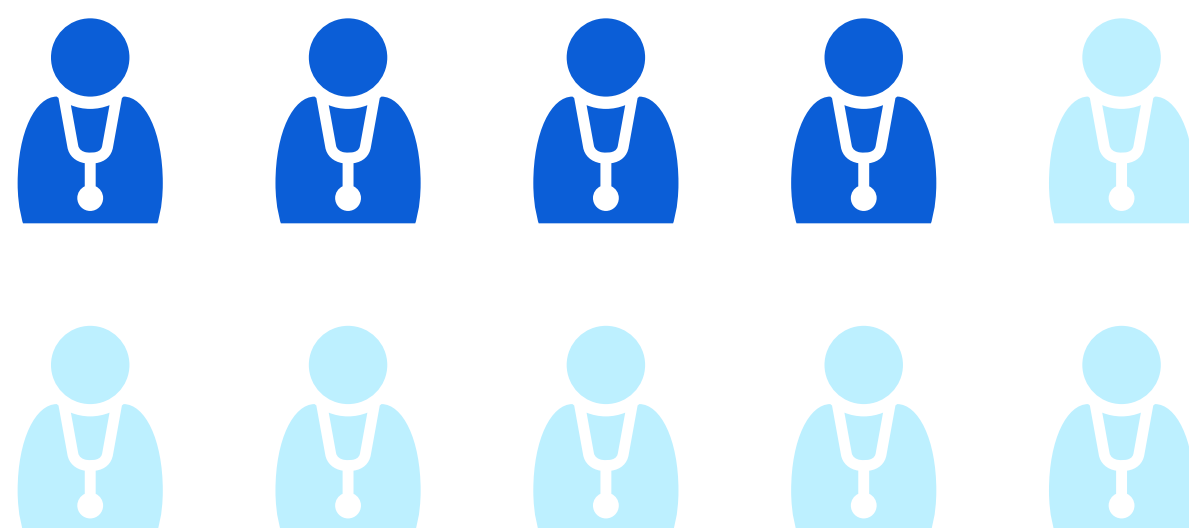
AIが安全性の面でも有用なツールになりつつあるという認識が広がっています。

医療従事者の10人に4人（39％）が、過去3カ月間に少なくとも3回、AIによって潜在的な医療上のエラーを特定または防止できたと回答しています。

ヘルスケアリーダーは、AIが患者安全に果たす重要な役割を認識しており、リーダー以外の医療従事者よりも、その効果を報告する割合が高くなっています（44％ 対 34％）。

医療上のエラーには、診断の見落としや遅れ、不適切な治療、安全でない薬物相互作用などのリスクの見落としが含まれます。実際の医療現場では、医療従事者はAIを、意思決定を確認し、患者ケアに影響が及ぶ前に潜在的な問題を発見するための支援ツールとして活用しています。

特に、時間的なプレッシャーによって見落としのリスクが高まり、重要な所見の見逃しが深刻な結果につながり得る臨床環境では、AIを「もう一組の目」と表現する医療従事者もいます。AIツールは、リスクや患者データの変化を検知し、状態悪化の可能性を知らせることで、医療従事者がより早く対応できるよう支援します。



10人に4人

医療従事者の10人に4人が、過去3カ月間に少なくとも3回、AIによって潜在的な医療上のエラーを特定または防止できたと回答。



「医療従事者は、AIを抽象的なテクノロジーとしてではなく、臨床現場の安全性を実質的に変えるものとして実感し始めています。」

Ami B. Bhatt
MD, Chief Innovation Officer,
American College of Cardiology

AIが財務面でも成果をもたらし始めている

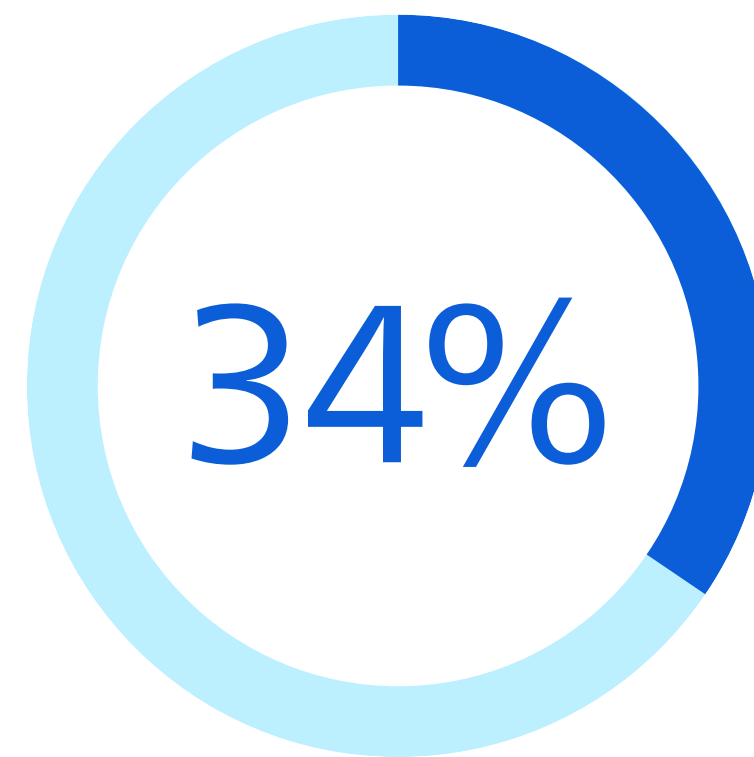
初期の兆候から、AIが測定可能な成果を生み出し始めていることが示されています。

AIは医療を改善すると同時に、医療システムが現在のリソースをより有効に活用することを支援しています。

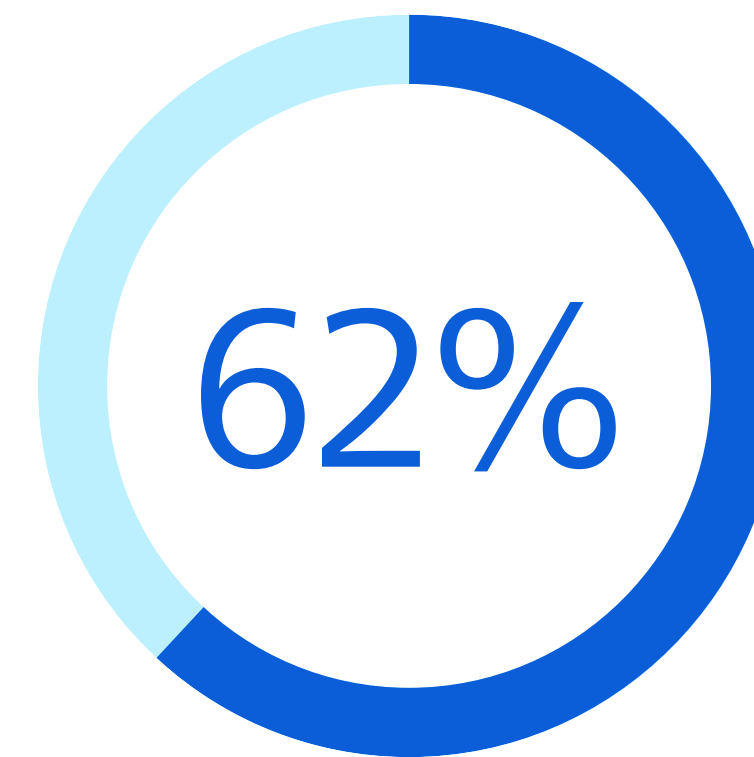
ヘルスケアリーダーの3分の1が、AI導入によって予算削減効果が得られたと回答しています。

AIの利用状況や効果は市場によって異なるものの、その価値についてヘルスケアリーダーの見方は概ね一致しています。

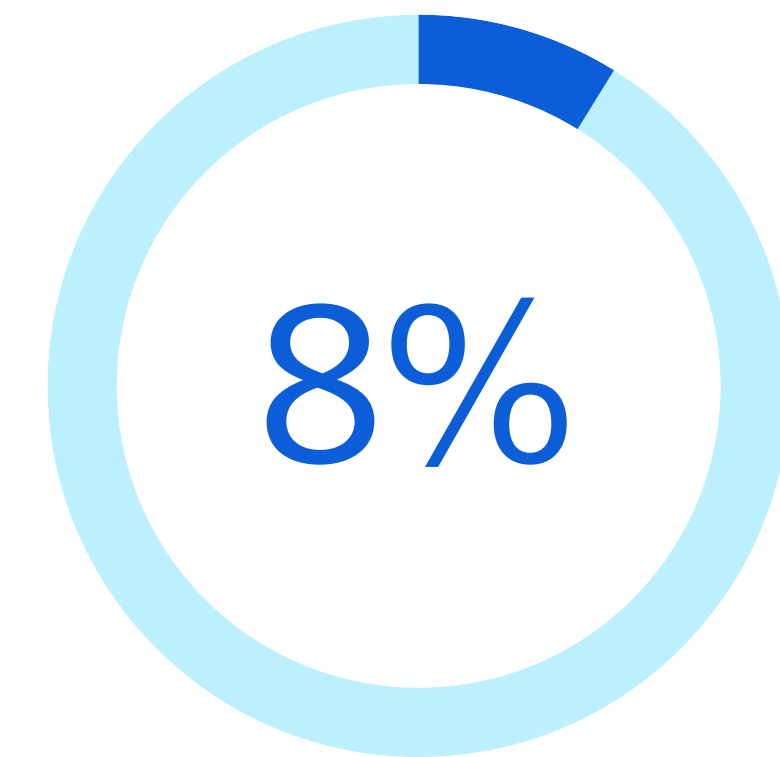
62%が、AIへの投資によるメリットは、コストに見合う、またはコストを上回っていると回答しています。



ヘルスケアリーダーの 34% が、
AI 導入による予算削減効果を報告



ヘルスケアリーダーの 62% が、
AI への投資によるメリットはコストに見合う、
または上回っていると回答



ヘルスケアリーダーの 8% が、
AI への投資を現在行っておらず、
今後も投資する予定はないと回答

2

AI導入の加速に追いつかない 医療現場の態勢

AIの導入は、医療従事者の強いニーズと、医療を改善する可能性を背景に、医療分野全体で加速しています。

こうしたツールが臨床ワークフローに組み込まれていくなか、医療システムでは、この動きを大規模かつ一貫した活用につなげるためのトレーニング、統合、サポート体制の整備がまだ進められている段階です。

医療現場でAI活用が進む一方、インフラ整備はまだ途上

AIの導入は医療分野全体で加速していますが、効果的な活用には、信頼でき、統合されたツールが不可欠です。

医療従事者の約3分の2（64%）が、職場で提供されているAIツールではニーズを満たせない場合、個人で利用しているAIツールを使用すると回答しています。

これは、医療従事者のAIに対するニーズが急速に高まっており、時には組織側の対応を上回るスピードで進んでいることを示しています。医療従事者は、AIが自身の業務をどのように支援できるかを積極的に模索しています。

一方、医療機関では、AI活用を支えるために必要なインフラの整備がまだ進められている段階です。

医療従事者の過半数（59%）は、所属組織のリーダーシップがAI搭載ツールの導入に向けて適切な対応を取っていると回答していますが、その認識にはばらつきがあります。

ヘルスケアリーダーは、リーダー以外の医療従事者と比べ、適切な対応が取られていると回答する割合が高くなっています（63% 対 56%）。これは、この移行期において、組織から十分なサポートを受けていると感じる度合いが医療従事者によって異なることを示唆しています。

こうした調査結果は、急速に進むAI導入を、医療システム全体での活用へと展開していく難しさを浮き彫りにしています。

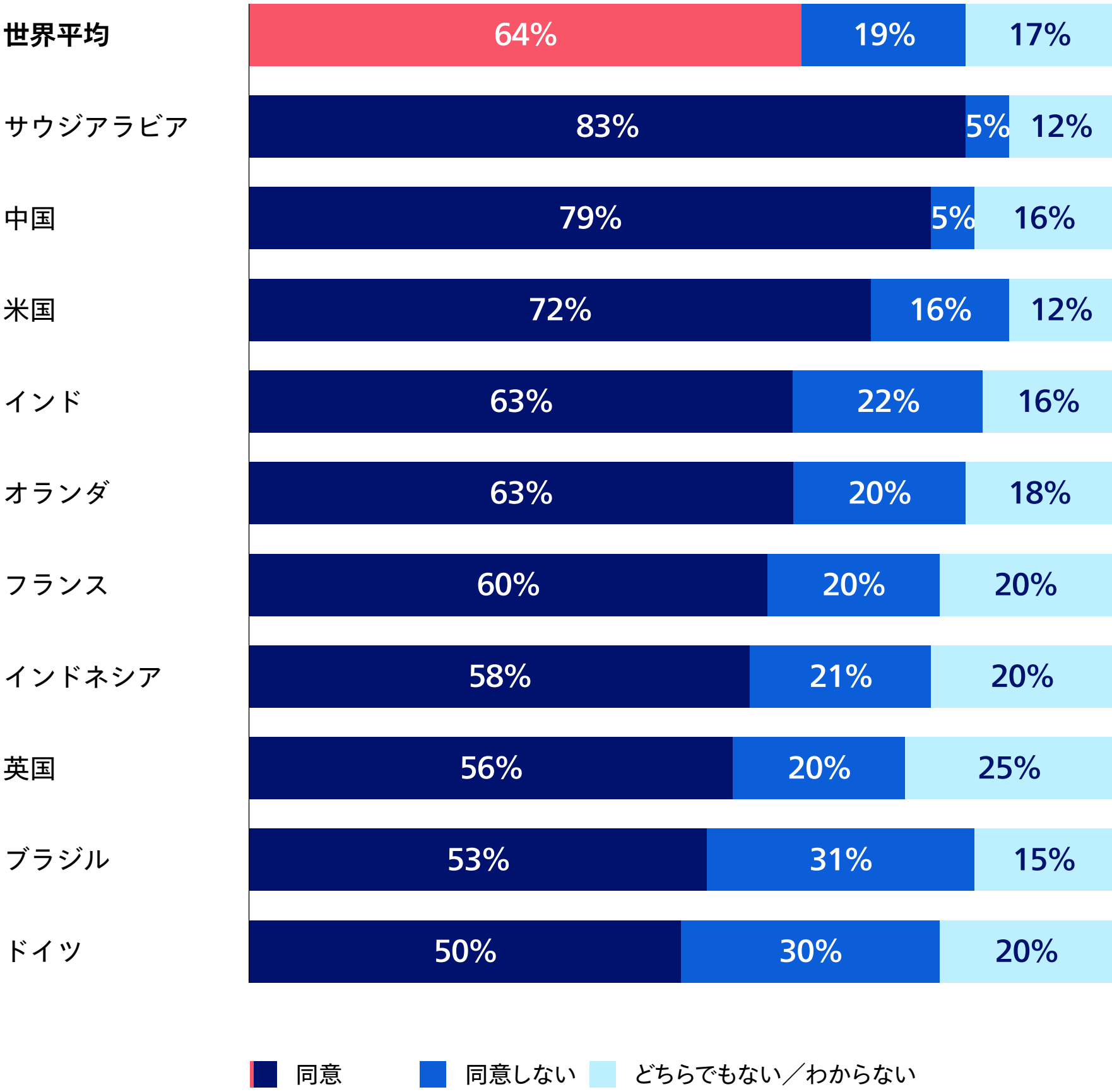
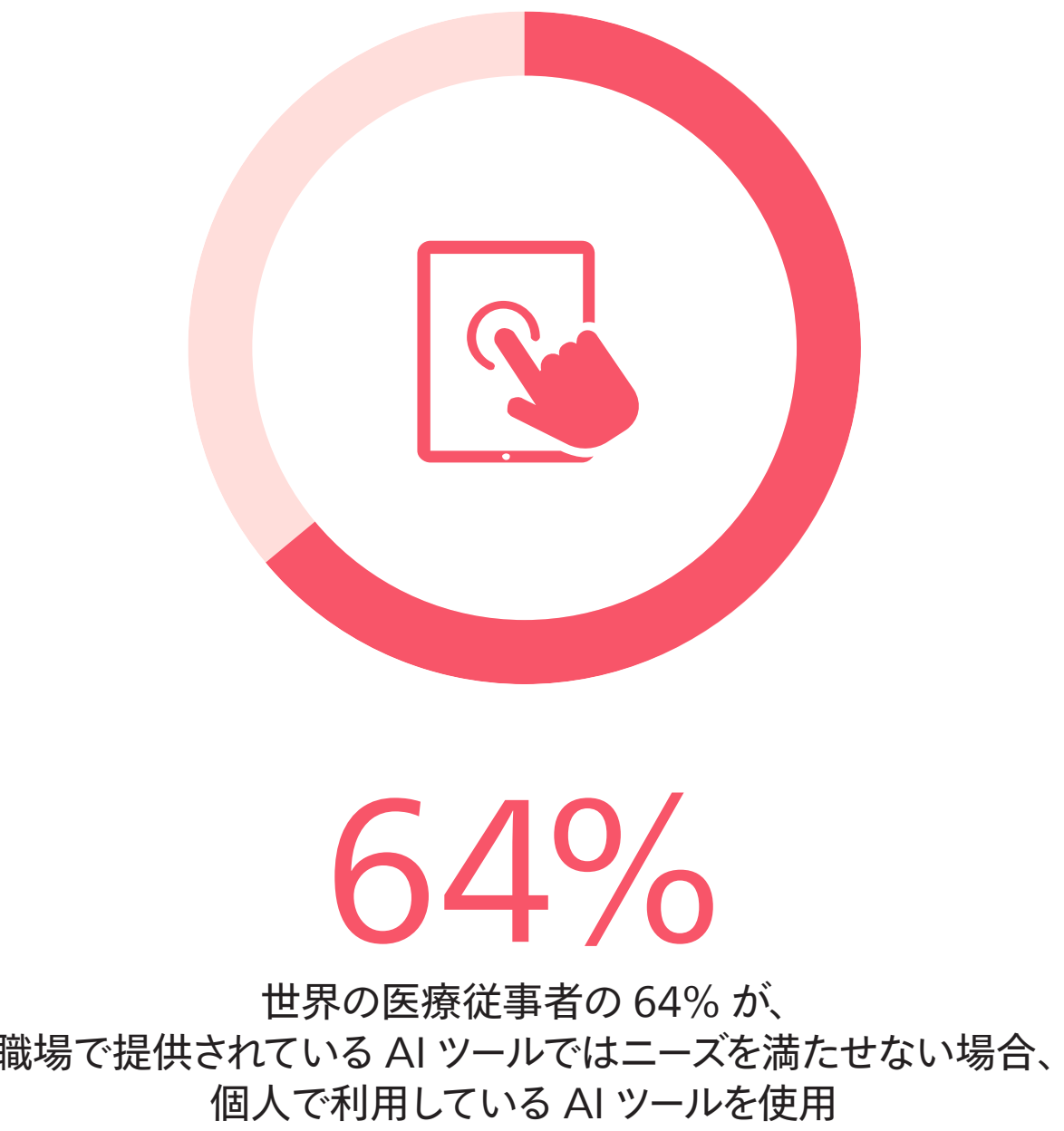
特に、システムやワークフローが分断されている環境では、AIを医療に統合することは容易ではありません。

医療従事者が目の前のニーズに対応するため積極的にAIツールを導入する一方、組織側ではAIを臨床現場全体に統合する取り組みも進めており、それが組織全体への展開に時間を要する要因となる場合があります。

強固なガバナンスは、患者の安全を守り、データを保護し、臨床

上のリスクを低減すると同時に、医療従事者が信頼でき、統合されたツールを利用できる環境の確保につながります。

医療エコシステム全体で連携して取り組み、さらにそれを後押しする政策や規制を整備することが、医療システムの受け入れ態勢を強化する鍵となります。



※四捨五入のため、割合の合計が100%から±1ポイント異なる場合があります。

トレーニングがニーズに追いついていない

AIを効果的かつ大規模に活用するうえで、トレーニングが重要な鍵となっています。

医療従事者によるAIツールの利用がすでに進む一方、その効果的な活用には、より多くのサポートが必要だと考える人も少なくありません。10人に7人（70%）が、所属組織におけるAI搭載ツールのトレーニングについて、利用できない、限定的、または一貫性がないと回答しています。

医療システムでは、組織全体でAIリテラシーを高める必要性が認識されており、体系的な研修プログラムや認定制度から、実務を通じた学習まで、さまざまなトレーニング方法が検討されています。

必要とされているのは、単なるツールの使い方に関するトレーニングだけではありません。

医療従事者は、

- AIによる推奨内容の正確性を確認する方法：**58%**
- AIツールを使いこなすための技術的スキル：**55%**
- 法的責任についての理解：**50%**

についてもサポートを求めています。

これらの結果は、AIを活用するためには、批判的な判断力や、AIの出力を検証し、疑問を持って評価する能力を含む、幅広いスキルが重要であることを示しています。

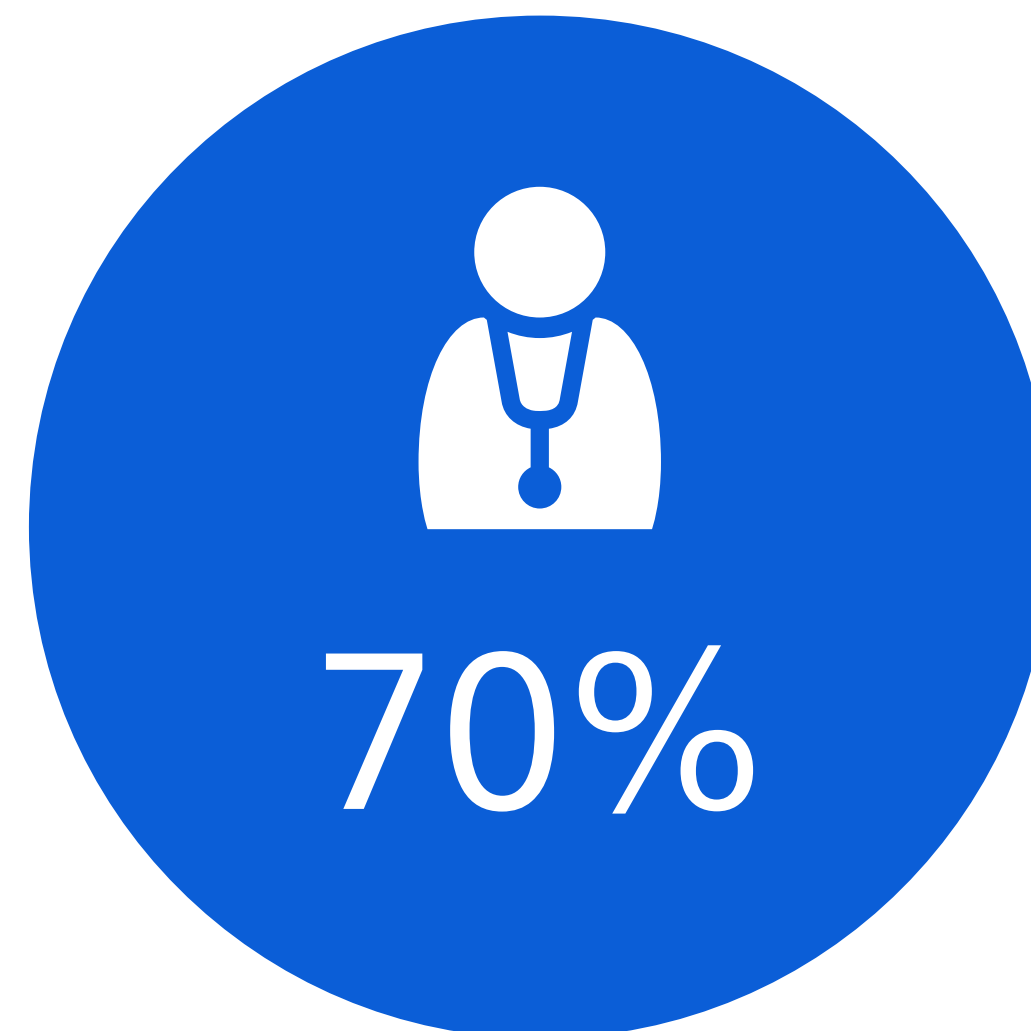
AIは回答を生成できますが、その回答への信頼は、医療従事者の臨床的な専門知識によって築かれます。

体系的かつ役割に応じたトレーニングを拡充することで、医療従事者はAIを効果的に活用するために必要なデジタルスキルと臨床判断力を身につけることができます。

これにより、医療全体でAIを安全に、その可能性を最大限に引き出す形で活用できるようになります。

その実現には、医療システム、学術機関、認定機関、テクノロジープロバイダーなど、さまざまなステークホルダーによる取り組みが必要です。

AIトレーニングへのアクセスにはばらつきがある



医療従事者の70%が、所属組織におけるAI搭載ツールのトレーニングについて、利用できない、限定的、または一貫性がないと回答。



AIの活用拡大には、人による監督と臨床判断が不可欠

AIが日常の臨床現場でその価値を示すにつれ、焦点は「導入」から「効果的な活用拡大」へと移りつつあります。同時に、医療従事者はAIツールについて、依然として改善が必要な領域があると考えています。

特に、

- AIツールがエラーを起こすこと：**66%**
- 臨床環境によってパフォーマンスにばらつきがあること：**58%**
- AI搭載ツールがどのように推奨内容を引き出したのか、そのプロセスの透明性が不足していること：**60%**

について強い懸念を示しています。

これらの結果は、AI導入の初期段階における現実とともに、信頼を獲得し、一貫したパフォーマンスを実現するために必要な要素を示しています。

他の臨床システムと同様、AIについても、異なる患者層や医療環境で一貫したパフォーマンスを確保するために、継続的なモニタリング、監査、トレーサビリティが必要です。

しかし、医療従事者の70%が、AI搭載ツールをモニタリングするための明確なプロセスがまだ整備されていないと回答しています。

同時に、医療従事者は、AIを実際の医療でどのように活用すべきかについて明確な考えを示しています。

90%が、AI技術が進歩しても人が関与し続けることが不可欠だと回答し、86%が、AIによるすべての出力には人による監督

が必要だと考えています。

AIは医療従事者の意思決定に重要な情報を提供できますが、最終的な責任を担うのは医療従事者です。

医療従事者は、AIの能力と人による判断を組み合わせることで最大の価値が生まれると考えており、それぞれの強みを生かす、より協働的な医療モデルへの移行を示唆しています。



10人に9人

医療従事者の10人に9人が、AI技術が進歩しても人が関与し続けることが不可欠だと回答。

AIと医療従事者の関わり方は、今後さらに変化する可能性がある

AIが臨床現場により深く組み込まれるようになると、将来の医療従事者は、AIの出力を確認するために必要なスキルや批判的な視点を現在と同じレベルで身につけることなく、こうしたツールへの依存度を高める可能性があります。

現在の医療従事者はAIがない環境で教育を受けてきた一方、将来の世代が受ける教育はこれとは異なるものになります。

そのため、現在どのようにAIを導入するかという判断が、将来の医療のあり方、さらには患者がAIによって支援される医療をどのように経験し、信頼するかに、長期的な影響を与える可能性があります。





3

新たな ハイブリッド・ケアチーム

AIが医療に組み込まれるにつれ、ケアチームはより協働的なモデルへと進化しています。AIが臨床業務を支援する一方で、意思決定に対する責任は引き続き医療従事者が担い、患者は自身のケアにおいてより積極的な役割を果たすようになります。

AIによって、医療従事者は能力を最大限に発揮できる

医療従事者は、AIによって自身の役割や、業務に必要なスキルが変化していくと考えています。

ほぼすべての医療従事者（96%）が、AIによって自身の働き方が変わると予想しており、半数以上（53%）が、自身の役割に大きな変化が生じると考えています。

AIが、スケジュール管理、症例の整理、複数のシステムにまたがる情報の集約といった日常的な事務作業を担うようになれば、医療従事者は、複雑な患者ケアにおけるデータの解釈や意思決定に、より多くの時間を充てられる可能性があります。

しかし、こうした変化が自然に実現するわけではありません。医療従事者には新たなスキルが必要となり、それを身につけるためのトレーニングやサポートも必要です。

半数近く（44%）が、AIに過度に依存することで臨床スキルが低下することを懸念しており、37%は、自身の役割が、受け入れられると感じる以上のスピードで変化していると回答しています。それでも、医療従事者はAIが自分たちにとって代わるとは考えていません。

大多数（60%）は、AI搭載ツールによって自分の仕事がなくなることを懸念していません。一方で、特定の役割がなくなると考える人は74%、新たな役割が生まれると考える人は73%に上ります。むしろ医療従事者は、AIによって自身の能力を最大限に発揮できるようになると考えています。

こうした変化のなかで、あるいは変化が進むからこそ、AI時代に最も重視されるスキルは、引き続き人間ならではのスキルである可能性があります。

80%以上が、医療従事者と患者との間に築かれる関係性をAIが置き換えることはないと回答しており、77%が、AIの進歩に伴い、人と人とのコミュニケーション能力はさらに重要になると考えています。

医療従事者は、自身の専門性が最も大きな価値を発揮するケアの場面に、より注力できるようになる可能性があります。

AIは医療における役割を変化させ、医療従事者とテクノロジーシステムの間で業務を再配分しつつあります。

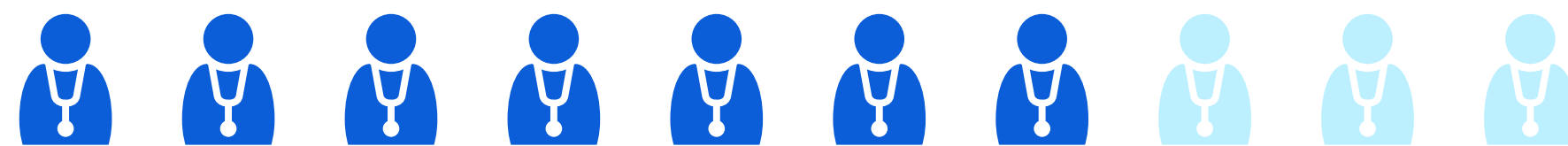
これは、新たなハイブリッド・ケアチームの始まりを示しています。

医療従事者は、AIによってより価値の高いケアに注力できると期待



10人に8人

医療従事者の10人に8人が、自身の役割がすでにより価値の高い臨床業務に重点を置くものへと変化している、または将来的に変化すると回答。



10人に7人

医療従事者の10人に7人が、AIによって自身の資格を最大限に発揮できるようになると回答。

ツールからチームメイトへ：医療におけるAIの役割を再定義

AIによってケアチームのあり方が変化するなか、その役割への期待は高まっています。

将来、医療従事者は、データ処理や事務作業（68%）、臨床上の推論や意思決定の一部を支援する業務（65%）などにおいて、AIエージェントがチームの一員になると考えています。

AIの役割は拡大していますが、その一方で、AIに任せる範囲については明確な考えが示されています。

その境界が最も明確に表れているのが、AIの自律性に対する医療従事者の考え方です。

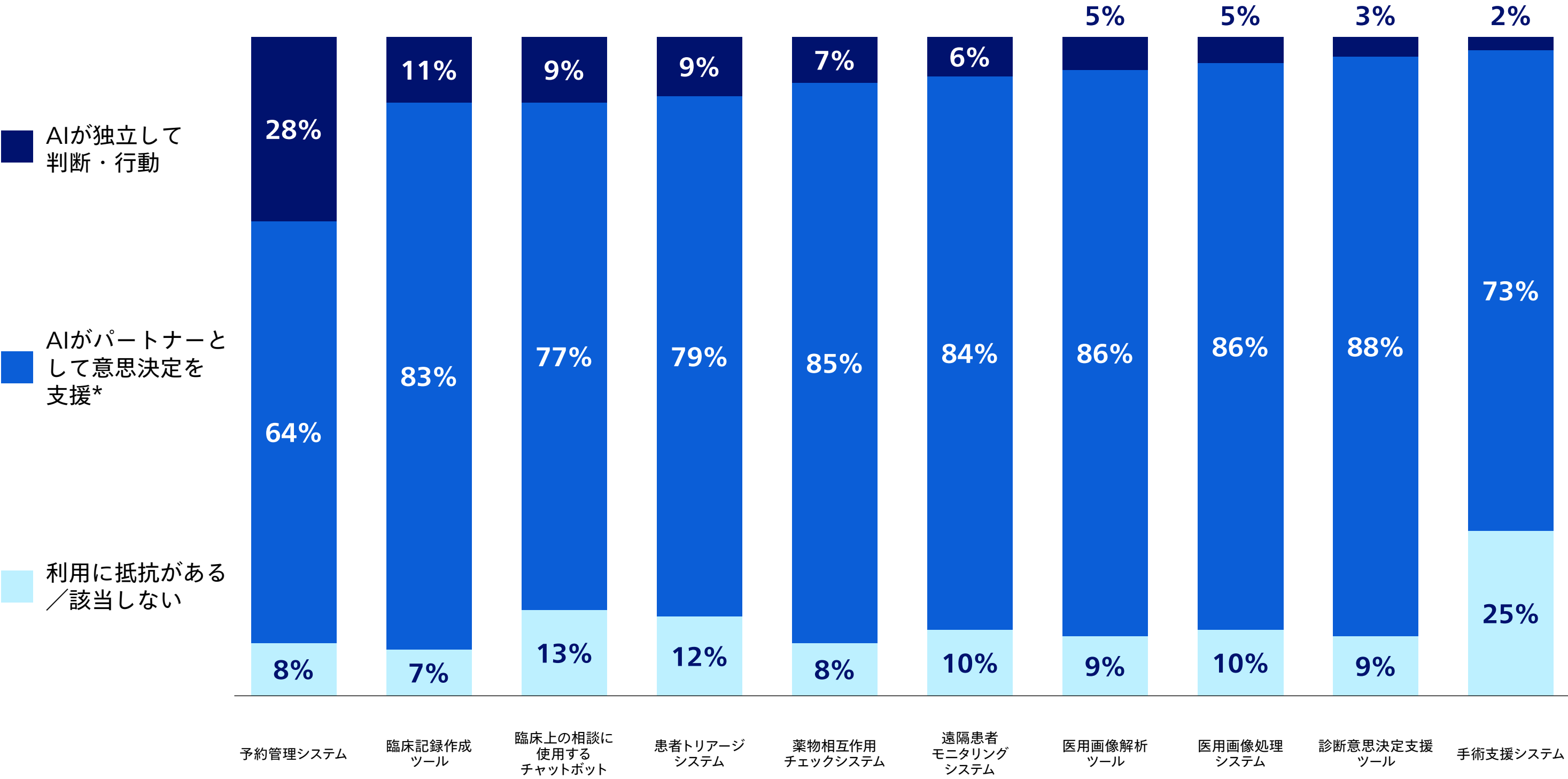
多くの医療従事者がAIによる業務支援を受け入れている一方、ほとんどの臨床上の意思決定において、AIが独立して判断・行動することを受け入れられると回答した割合は10%未満です。

一方、予約管理などの事務作業では、AIが独立して判断・行動することへの許容度は比較的高く、28%となっています。

医療従事者は、AIがより多くの業務を担うことを期待していますが、より大きな決定権を持つことを期待しているわけではありません。

AIが臨床現場により深く組み込まれていくなか、その役割は、医療従事者が使用する「ツール」から、医療提供を支える「チームメイト」へと進化しています。

医療従事者は、AI が独立して判断するよりも、「パートナー」として意思決定を支援することをより受け入れている



* AIが対応を推奨したり、医療従事者が最終的な意思決定や行動を行う前に確認するための情報を提示したりするケースを含みます。

※四捨五入のため、割合の合計が100%から±1ポイント異なる場合があります。

AI時代、患者はより準備し、主体的に医療に関わるように

AIは、患者とケアチームとの関わり方も変えています。患者は、診療にあたってより多くの情報を事前に得て、より積極的に自身の健康に関する意思決定に関わるようになっていきます。

医療従事者の4分の3（74%）が、患者がAIで生成した健康・医療情報を持って診察を受けるようになっていっていると回答しています。

また、63%が、こうした情報を得た患者が、より広がりを持つハイブリッド・ケアチームの重要な一員になると考えています。

患者の半数以上が、自身の健康を管理するうえでAIを使う方法を知ることが重要になる（59%）、またAIによって自身のケアにより積極的に関わられるようになる（56%）と回答しています。

患者は、生成AIなどのツールを使って、自身の症状を理解したり、治療の選択肢を調べたり、医療情報を確認したりしています。

健康・医療情報を得るためにAIを利用している患者は、こうしたツールによって、

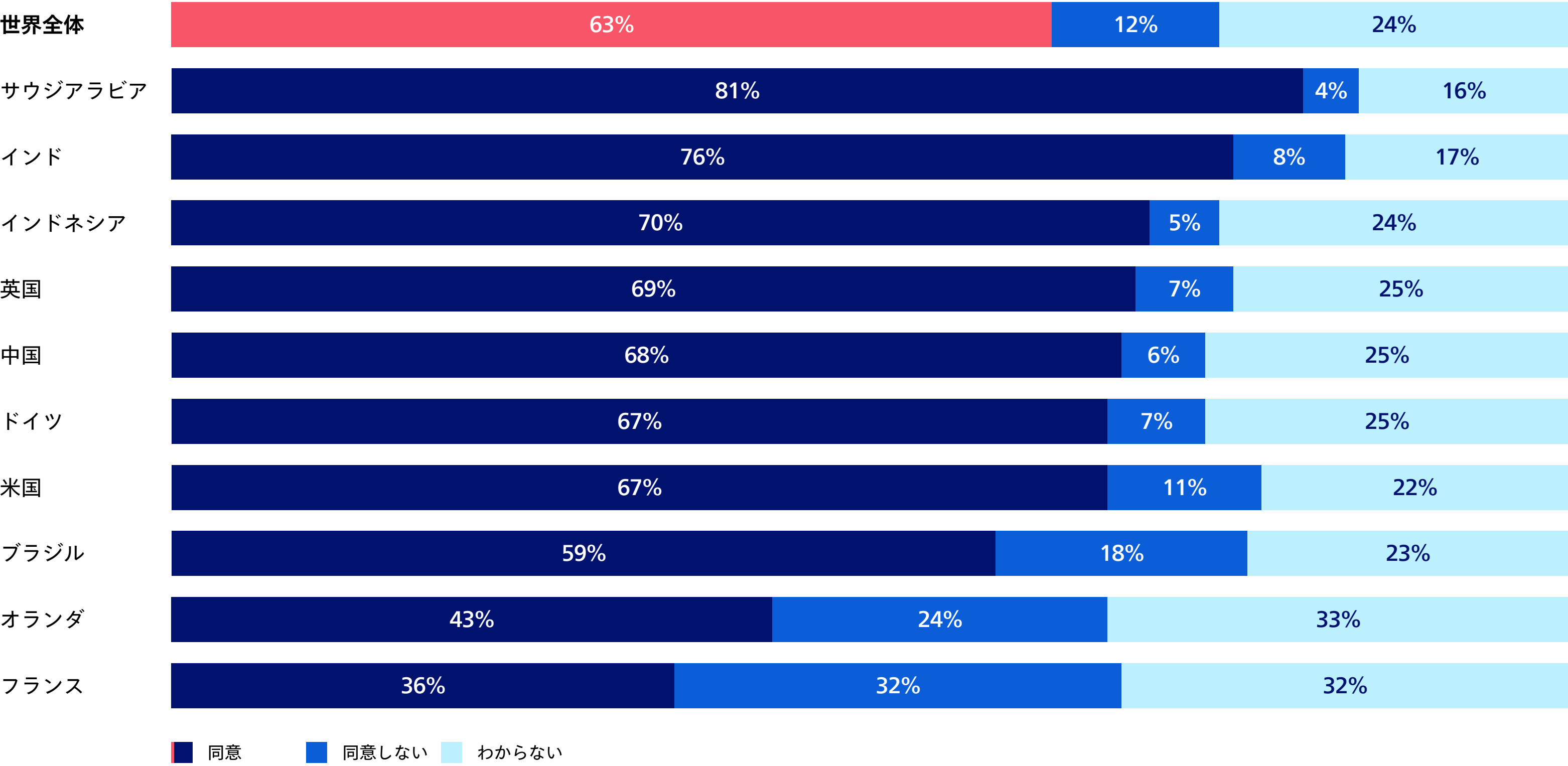
- 自身の健康について、より多くの情報を得られる：61%
- 医師により適切な質問ができる：61%
- 診察時間をより有効に活用できる：55%

と回答しています。

一方、情報量が増えることが、必ずしもより深い理解やより良い意思決定につながるわけではありません。

これは、AIによって支援される医療のメリットをすべての患者が享受できるようにするために、臨床的な文脈、医療従事者によるガイダンスやサポートが必要であることを改めて示しています。

AIを活用する患者は、将来のケアチームに不可欠な存在になる



※四捨五入のため、割合の合計が100%から±1ポイント異なる場合があります。

医療におけるAIとの向き合い方を、ともに模索

自身の健康を理解し、管理するためにAIを利用する患者が増えるなか、診察そのものも変化し始めています。

医療従事者の10人に7人（69％）が、AIによって生成された誤情報を訂正しなければならなかった経験があると回答しています。

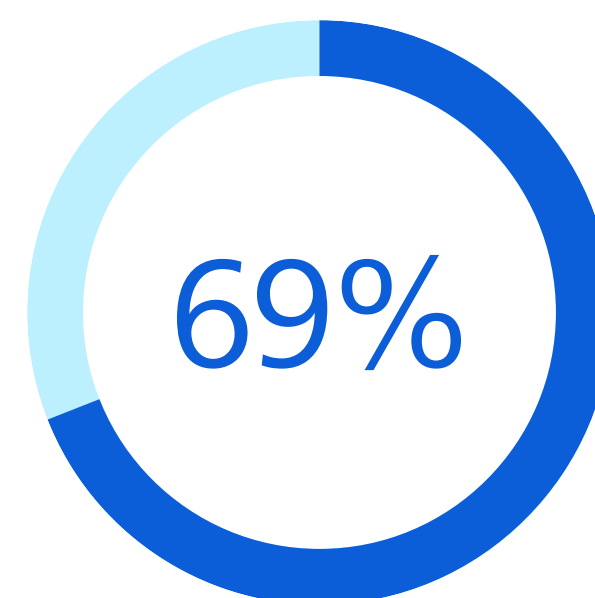
これは診察時の負担を増やし、貴重な時間を費やすことになり、患者のアウトカムにも影響を及ぼす可能性があります。

健康・医療情報を得るためにAIを利用し、その情報を医療従事者に持ち込んだ患者に対する反応は分かれています。

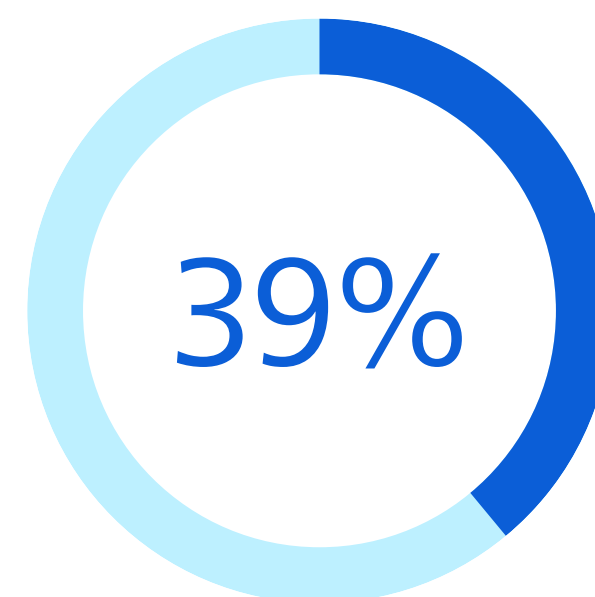
患者の42％が医療従事者から肯定的な反応を受けたと回答した一方、44％は否定的な反応を受けたと回答しています。

診察はよりダイナミックなものへと変化しており、医療従事者と患者の双方に、より良いコミュニケーション、より強い信頼関係、そして新たなスキルが求められています。

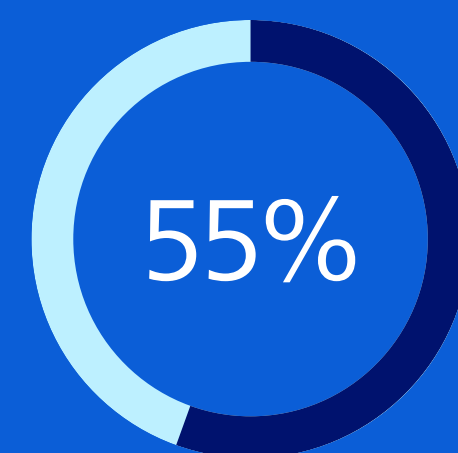
医療が進化するなか、医療従事者と患者は、AIとどのように向き合っていくかをともに模索しています。



医療従事者の69%が、AIによって生成された誤情報を訂正しなければならなかった経験があると回答



医療従事者の39%が、AIが使用されていたことを知った患者が、受けている医療への信頼を失うのを目にしたことがあると回答



患者の55%が、生成AIによって医師との診察時間をより有効に活用できたと回答



AIによって、透明性と信頼に対する新たな期待が生まれている

患者と医療従事者の双方が、医療でAIを使用する際には透明性が不可欠だと考えています。

患者の10人に9人（89％）が、自身の医療にAIが使用される場合には、そのことを知らされるべきだと回答しています。

一方、医療従事者の39％が、AIが使用されていたことを知った後、患者が受けている医療への信頼を失うケースを経験したと回答しています。

医療従事者がAIについてどのように伝え、話し合い、その利用方法を説明するかが、今後、患者の信頼や診療時のコミュニケーションにますます大きな影響を与える可能性があります。

AIが医療により深く組み込まれていくなかでも、透明性と人による判断は、信頼を築くうえで引き続き中心的な役割を担います。



今後の展望

AIと医療の新たな時代

医療におけるAIは、初期の可能性や一部での成果から、よりつながった医療へと向かう次の段階に入りつつあります。

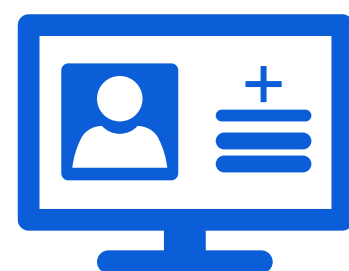
AIが日常の医療により深く組み込まれることで、医療システムは現在の患者により良い医療を提供すると同時に、より多くの人々に医療を提供できる能力を拡大することができます。

重要なのは、新たなツールを追加することではなく、新たなハイブリッド・ケアチームを中心に、医療提供のあり方そのものを再構築することです。

これにより、より早期の介入、一人ひとりに合わせたケア、そして患者アウトカムの改善が可能になると考えられます。

この可能性を最大限に引き出すためには、医療機関、医療従事者、政策立案者、規制当局、テクノロジーパートナーが連携し、分断されたデータ、ワークフロー、ケアチームをつなげていくことが必要です。

AIの実践から大規模な活用へ移行するために、
医療システムに求められること



1 | 統合されたAIエコシステムを構築する

医療分野では、個別のAIツールやシステムの導入が急速に進んでいます。次の大きな進展は、分断されたデータとワークフローをつなぎ、より連携のとれた医療を実現することから生まれます。統合を進めることで、医療へのアクセスを拡大し、より良いアウトカムを実現できる可能性があります。



2 | 医療従事者の自信と能力を高める

役割に応じたトレーニング、臨床上の監督、明確な責任の所在に投資することで、医療従事者が患者ケアにAIを活用できるようになります。AIが日常の医療の一部となるにつれ、医療従事者には、AIを適切かつ効果的に活用するための自信とスキルが必要になります。



3 | ハイブリッド・ケアチームを前提に設計する

AIによる支援を受けることで、医療従事者は自身の能力を最大限に発揮できるようになり、患者は自身の健康について、より積極的な役割を担うようになります。人による判断を中心に据えながら、こうした変化する役割を明確に定義することで、より個別化され、信頼される医療モデルを実現できるようになります。



付録

調査方法

Vitreous Worldが、オンライン調査 (CAWI) 方式を用いて、2つの定量調査*を実施しました。
調査は2026年2月から4月にかけて、以下の10カ国で実施されました。
ブラジル、中国、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、オランダ、サウジアラビア、英国、米国



調査 1:

2,011人

医療従事者が15分間のオンライン調査に参加

- 医療従事者には、医師（外科医を含む）、看護師、フィジシャン・アシスタントが含まれています
- 回答者は、民間および公的医療システムにおけるさまざまな診療科に従事しています



Survey 2:

20,085人

18歳以上の患者が10分間のオンライン調査に参加

- 回答者は、各国の年齢・性別の構成を概ね反映しています
- 回答者の99%は、過去2年以内に医療従事者の診療を受けた、現在継続的な疾患を抱えている、または民間／公的／両方の医療を利用していると回答しています

必要に応じて、調査は各国の現地言語に翻訳されました。一部の質問については、それぞれの国・地域の状況に合わせて若干の調整が必要となる場合があります。その際も、質問の意味が英語の原文にできる限り近くなるよう配慮しています。

* 2つの調査はそれぞれ別々に実施されましたが、本レポートでは便宜上、調査データを単一の「調査」に基づくものとして記載しています。
調査データは中国本土のみを対象としており、台湾および香港は含まれていません。



以下の表は、各国のサンプルサイズと、95%信頼水準における推定誤差範囲*を示しています。

医療従事者調査

市 場	非加重サンプルサイズ	推定誤差範囲(ポイント)
全体 (グローバル)	2,011	+/- 2.2
ブラジル	201	+/- 6.9
中国	201	+/- 6.9
フランス	201	+/- 6.9
ドイツ	201	+/- 6.9
インド	200	+/- 6.9
インドネシア	201	+/- 6.9
オランダ	204	+/- 6.9
サウジアラビア	200	+/- 6.9
英国	200	+/- 6.9
米国	202	+/- 6.9

患者調査

市 場	非加重サンプルサイズ	推定誤差範囲(ポイント)
全体 (グローバル)	20,085	+/-0.7
ブラジル	2,021	+/-2.2
中国	2,018	+/-2.2
フランス	2,015	+/-2.2
ドイツ	2,003	+/-2.2
インド	2,004	+/-2.2
インドネシア	2,011	+/-2.2
オランダ	2,009	+/-2.2
サウジアラビア	2,003	+/-2.2
英国	2,001	+/-2.2
米国	2,000	+/-2.2

* 推定誤差範囲とは、各国の回答者母集団において、このサンプルサイズから想定される誤差範囲です。

用語集

人工知能（AI）

AIシステムとは、明示的または暗黙的な目的のために、受け取った入力情報から、物理的または仮想的な環境に影響を与え得る予測、コンテンツ、推奨、意思決定などの出力を生成する方法を推論する機械ベースのシステムです。

AIシステムによって、導入後の自律性や適応性のレベルは異なります。

AI搭載ツール

医療現場で使用される、人工知能の機能を組み込んだあらゆるテクノロジー、アプリケーション、システムを指します。組織から提供されるもの、個人のデバイスから利用するものの両方を含みます。これらのツールでは、AIが使用されていることが利用者に明示されている場合もあれば、バックグラウンドでAI機能が使用されている場合もあります。臨床分析、文書作成、スケジュール管理、診断支援、患者モニタリングなど、さまざまな機能を支援します。

AIエージェント

AIエージェントとは、人による入力を最小限に抑えながら、自律的にタスクを実行し、意思決定を行うことができるインテリジェントシステムです。

データ

本レポートでは、電子カルテ（EMR）、医療機器、ワークフロー管理ツールなど、さまざまな情報源から収集された臨床および／または業務に関する各種情報を指します。

生成AI

ユーザーからのプロンプトやリクエストに応じて、テキスト、画像、動画などを含むオリジナルコンテンツを生成できる、広く利用可能なAIシステムを指します。

ヘルスケアリーダー

医療施設におけるディレクターレベルの経営幹部、臨床部門の責任者（循環器部門長など）、オーナー、シニアパートナー、およびテクノロジーへの投資や予算配分・支出について最終的な意思決定を行う人を指します。

医療機関

医療従事者が勤務する病院または医療施設を指します。

医療従事者

医師、看護師、外科医、専門医など、患者への医療サービスの提供に直接携わる人を指します。本レポートでは、clinicians も医療従事者を指します。

患者受け入れの効率性

患者が医療施設に到着してから退出するまでのプロセスを、どの程度効率的に進められるかを指します。

遠隔患者モニタリング

患者の健康状態を遠隔で追跡し、診断することができるテクノロジーを指します。

専門医

特定の診療領域について専門的な教育・訓練を受け、資格を有する医師またはその他の医療従事者を指します。例として、オンコロジスト（がん専門医）、循環器専門医などがあります。

ワークフロー

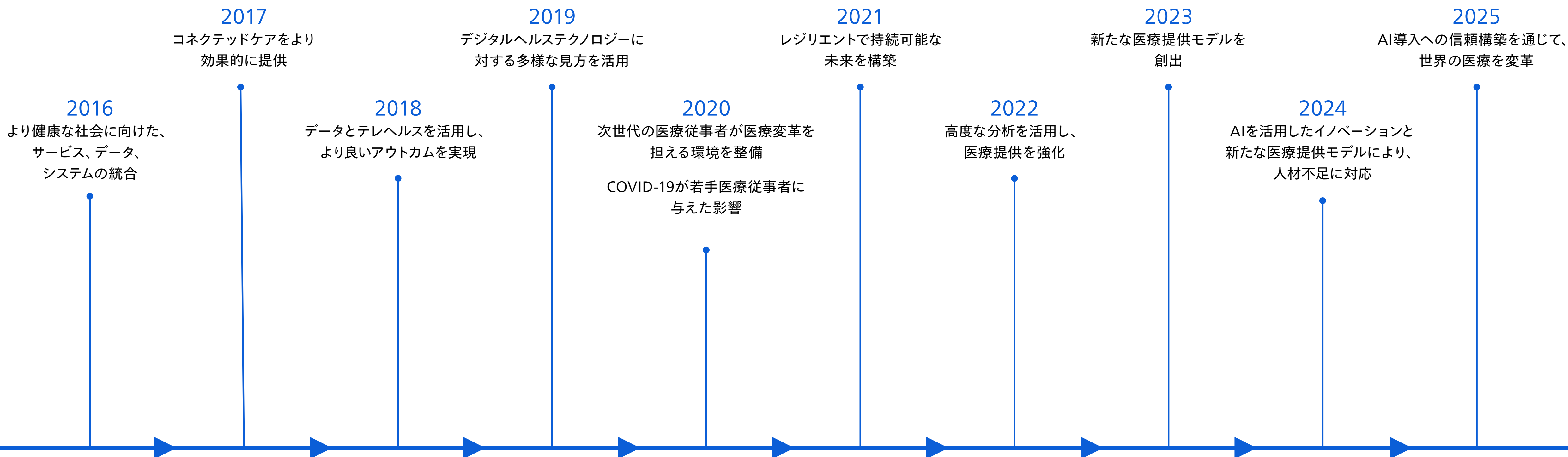
医療を提供するために、さまざまな人が同一または異なる業務環境において実行する一連のタスクからなるプロセスを指します。各タスクを完了するために、一人による作業、人と人との間での作業、組織をまたいだ作業が必要となる場合があります、それらは順番に、または同時に行われることがあります。

10年にわたる グローバル調査

Future Health Indexでは、医療システムが直面する主要なトレンドの中で、テクノロジーが果たす役割を継続的に調査してきました。

当初は、世界各国におけるコネクテッドケアの導入状況を測るベンチマークとしてスタートしました。

その後Future Health Indexは、人口構成や医療システムの異なる国々のヘルスケアリーダー、医療従事者、患者の視点をもとに、テクノロジーが医療の未来をどのように形づくることのできるかを探る調査へと発展してきました。



PHILIPS

www.philips.com/futurehealthindex-2026

Future Health Indexは、フィリップスが委託する調査です。

11回目となるFuture Health Index 2026では、医療におけるAIの実社会でのインパクトと、そこから得られる成果を大規模に展開するために必要な要素を明らかにしています。

ブラジル、中国、フランス、ドイツ、インド、インドネシア、オランダ、サウジアラビア、英国、米国の10カ国で、2,000人を超える医療従事者と20,000人を超える患者を対象に、2つの定量調査を実施しました。

調査は2026年2月から4月にかけて実施されました。

© 2026 Koninklijke Philips N.V.